

一般財団法人 小貫基金
理事長 小貫 満義 様

奨学生生活を振り返って

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。
この度は、3年間にわたり貴財団より奨学金をご支援いただき、誠にありがとうございました。高校生活を送る中で、貴財団から頂いた奨学金は大きな支えとなり、心より感謝申し上げます。
奨学金を頂くことで経済的な面での心配が軽減せられ、何一つ不自由なく生活することができました。おかげさまで、高校生活の目標としていた部活と勉強の両立に専念することができました。
学習面では授業の予習復習を徹底し、定期試験や模擬試験にも真摯に取り組み、学力向上に努めてまいりました。また、部活動では日々の練習に励み、仲間と切磋琢磨しながら目標に向かって努力を重ねてまいりました。限られた時間を有効に活用することを意識し、学業と部活動の両立に努める中で、忍耐力は責任感、自己管理の大切さを学ぶことができました。これもひとえに貴財団のご支援の賜物と深く感謝しております。
将来は体育の教員となり、運動が得意な生徒も苦手な生徒にも楽しさを伝えられるような教員になりたいと考えています。具活動で培った経験を活かし、生徒一人ひとりに寄り添いながら、心身ともに成長を支えられる教員を目指してまいります。皆様からのご厚意を決して忘れず、大学に入学後も目標に向かって精進し、いつか社会に貢献できる人間になることで、恩返しをさせていただきたいと存じます。
末筆ながら、貴財団の益々のご発展と、関係者の皆様のご健勝を心よりお祈り申し上げます。

3年間、本当にありがとうございました。

敬具

私は高校生活の間、文武両道を目指し陸上競技の長距離と学業の両立に取り組んで来ました。高校生活の間支援していただき、不安を抱えることなく、素晴らしい環境の中学校生活を送ることができました。そのおかげで、目標にしていた競技と学業の両方に集中することができました。小貫財団の方々によるご支援は、私にとって非常に大きな支えでした。学業面では、意欲的に授業に参加し、計画的に課題に取り組み、余裕をもって生活ができました。基礎を大切にし、継続して学力の向上に努めることができました。

一方で競技面ではご支援を受けている立場として強い責任感を持ち、日々の練習に真剣に取り組ましました。しかし思うように記録が伸びず、高校3年生の春には怪我をしてしまいました。周囲の仲間が着実に力を伸ばしていく中

で自分は走ることができずに不安になることが多かったですが、陸上に集中することができ、環境を支援していただいた小買財団様に恩返しをしたいとより一層強く思うようになった。怪我が完治してから気持ちを入れ替えて練習に励みました。目標としていた全国高校駅伝を走ることができませんでした。したが、最後の試合では、自分の中で一番良~~い~~走り~~が~~ができました。悔しい思いも多かった。3年間でしたが、たくさんのお話を学ぶことができました。大学では高校で学んだことを活かして頑張ります。

最後に、高校生活の長い間支援していただきありがとうございました。大学入学後は、高校での課題や学んだ知識を活かして文武両道を目指し、今後も頑張りたいです。

奨学生生活を振り返って

私は奨学金を給付していただいたことにより変化したことが二つあります。

一つ目は、アルバイトに充てていた時間を勉強時間に充てることかできたことです。夏休みから受験勉強を開始し、後期の講義が開始したと同時に受験勉強も本格的になり、アルバイトとの両立が少しずつ難しくなりました。アルバイトから学べることも多く

あります。が、学生は学業が優先だと考えているためアルバイトによる勉強時間が削られるてしまうのは最善ではないと考えました。そのため奨学金を給付していただいたことにより金銭面に心配することなくアルバイトの時間を勉強時間に充てることができました。

二つ目は、奨学金を学費に充てることかできたことです。私の収入はアルバイトのお給料のみのため自身で学費を支払うことが難しく、いとから両親に援助してもらっていただきます。

そのため両親に恩返しの気持ちを含め、満額に近い金額を返すことができました。

奨学金を給付していただいたことにより、より一層勉強に力を注ぐことができ、更に自身を成長させることができたと感じています。これから向上心を忘れることなく努力し続け、国家試験に合格し、歯科衛生士になりました。からも資格取得などのたくさんのごことに積極的に挑戦し続けられる人でありたいと考えっております。この度は特別給付奨学金を給付し

ていただき、ありがとうございました。

私は歯科衛生士学校在学中に、奨学金を利用させていただきました。そのおかげで、経済的な心配が軽減され、学業に集中できるようになりました。

学校生活はとても充実しており、クラスメイトや先生方に恵まれ、楽しく学ぶことができました。一年生の頃から日々の授業や実習に真剣に取り組み、歯科衛生士として必要な知識や技術の一つひとつ身につけることができたと感じています。

勉強が大変だと感じる時期もありましたが、その経験があったからこそ、自分なりの学習方法を見つけてことができ、粘り強く努力する力も身につきました。奨学金を利用させていただきながら学ぶ中で、支えてくださっている方々への感謝の気持ちもより強くなりました。

また、奨学金は単なる金銭的支援を受けたということだけでなく、自分の将来について真剣に考えるきっかけにもなりました。支援を受けている立場として、歯科衛生士として社会に貢献したいという気持ちがより強くなりました。学校で学んだ知識や技術を確実に身につけ、患者さん一人ひとりに寄り添える歯科衛生士になりたいと考えています。

奨学金制度があったからこそ、学ぶ機会を諦めずにここまで続けてくることができました。この経験を忘れず、これからも歯科衛生士として必要な知識や技術を、学び続けていきたいと思います。今後は、支えてもらった分を社会に還元できるように、責任と誇りをもって歯科衛生士として成長していきたいと思っています。

ご支援いただき、本当にありがとうございました。

で	床		習	将	し		む	げ	た		に	方	材	る	え		て	生	や
す	で		を	来	て		こ	で	の		臨	、	料	機	、	後	、	方	、
。本	役		さ	を	い		と	、	で		む	患	会	、	期	実	、	の	学
当	に		せ	見	ま		が	無	す		こ	者	が	格	の	沢	手	校	
に	立		て	据	せ		で	理	が		と	層	格	段	臨	山	技	で	
あ	ち		い	え	ん		き	せ	、		が	も	に	に	床	学	、	習	
り	た		た	て	が		ま	ず	、		で	異	増	増	実	ば	理	う	
が	い		だ	専	口		し	、	奨		き	な	え	ま	習	せ	由	知	
と	思		い	門	腔		た	学	学		、	ま	し	た	は	て	、	識	
う	い		て	書	筋		。大	問	生		幅	し	。使	週	週	た	考	の	
ご	が		お	を	機		変	・実	を		も	。使	三	日	だ	え	大		
ざ	強		り	個	能		あ	習	さ		広	用	日	ま	き	切	さ		
い	く		ま	人	療		り	に	せ		が	す	も	し	ま	を	を		
ま	な		す	購	法		が	全	て		り	。使	し	く	し	実	実		
し	っ		。使	入	に		た	力	い		ま	。使	く	は	た	感	で		
た	た		。使	し	興		い	で	た		し	。使	四	日	。使	き	き		
。使	学		。使	て	味		で	取	お		ま	。使	と	増	。使	、	先		
	生		。使	自	が		す	り	か		。使				。使				
	活		。使	己	出		。使	組							。使				
			。使	学	て		。使								。使				

御	社	か	ら	奨	学	金	を	支	給	し	て	い	た	だ	き	、	充	実	
し	た	高	校	生	活	を	送	る	こ	と	が	で	き	ま	し	た	。	心	よ
り	感	謝	申	し	上	げ	ま	す	。										
私	は	、	将	来	海	外	で	活	躍	す	る	研	究	医	に	な	り	た	
い	と	考	え	て	お	り	ま	す	。	私	の	人	生	の	目	標	を	達	成
す	べ	く	、	高	校	3	年	間	、	日	々	世	界	に	焦	点	を	当	て
た	学	習	を	す	る	よ	う	心	が	け	て	き	ま	し	た	。			
私	の	高	校	で	は	高	校	2	年	次	に	SSH	と	い	う	学	習	の	
時	間	が	あ	り	、	一	人	ひ	と	り	が	自	分	の	研	究	テ	ー	マ
を	持	っ	て	、	一	年	間	研	究	に	取	り	組	み	ま	す	。	そ	し
て	、	私	は	学	校	の	代	表	と	し	て	選	ば	れ	、	タイ	で	研	
究	発	表	を	行	う	こ	と	が	で	き	ま	し	た	。	日	々	の	研	究
は	思	う	よ	う	な	結	果	が	出	な	い	こ	と	が	多	く	、	苦	し
い	こ	と	も	多	か	っ	た	の	で	す	が	、	現	地	で	自	分	と	同
世	代	の	高	い	志	を	持	っ	た	海	外	の	方	々	と	研	究	に	つ
い	て	熱	い	議	論	を	し	た	こ	と	で	、	充	実	し	た	時	間	を
送	る	こ	と	が	で	き	、	大	き	な	達	成	感	を	味	わ	う	こ	と
が	で	き	ま	し	た	。	そ	し	て	将	来	へ	と	つ	な	が	る	研	究
者	と	し	て	の	一	歩	を	踏	む	こ	と	が	で	き	た	と	思	い	ま
す	。																		

2026年1月15日

このたびは、大学院在学中にあたり、貴社より多大なるご支援を賜り、心より御礼申し上げます。貴社の奨学金のおかげで、私の大学院生活はより充実し、学業と研究に専念することができました。

給付いただいた10万円の奨学金は、主に学習用のパソコンの購入に充てました。パソコンは、専門文献の読解、論文の執筆、授業資料や講義内容の理解・整理において大きな役割を果たしており、学習効率の向上に大変役立っています。また、残りの奨学金は、日本語教師試験の参考書購入費や、将来帰国後に試験準備を行う際の生活費および教科書代として大切に使用させていただく予定です。

現在、私は日本語教師試験の勉強に励んでおります。卒業後は、中国の公立高等学校において日本語教師として勤務し、日本語教育分野でのキャリアを築いていきたいと考えています。留学生活を通して得た日本語能力や日本文化への理解を、将来の教育現場で生かし、生徒たちに言語だけでなく異文化への関心や理解を伝えていくことが目標です。また、将来的に仕事が安定した後は、中国の地域社会における活動にも積極的に参加し、ボランティアとして日本語を無料で教えるなど、言語を通じた文化交流に貢献したいと考えています。

この一年間、貴社からの給付金は、経済的な支援にとどまらず、私にとって大きな精神的支えとなりました。日々の学習の中で困難に直面した際にも、「奨学金に恥じない努力をしよう」と自分を奮い立たせる原動力となっていました。

新年には貴社より年賀状を頂戴し、大変驚くとともに、小貫基金の温かいお心遣いを強く感じました。今後も毎日の学習を大切に、専門分野においてより成長した人材となれるよう、引き続き努力してまいります。改めまして、貴重なご支援に深く感謝申し上げます。

奨学生生活を振り返って

M大学 NHTC

まず初めに、小貫基金より奨学生として選んでいただき、このような貴重な機会を頂戴しましたことに、心より感謝申し上げます。奨学金のご支援のおかげで、経済的な不安が大幅に軽減され、学業に集中することができました。それだけでなく、自分自身を成長させる多くのチャンスや、日々の生活の中での新しい経験を得ることもできました。

この一年間を振り返ると、学習面において大きな成長を実感しています。まず、アルバイトの時間を減らして勉強に集中できたことで、JLPT N1 に合格することができました。また、卒業後に進みたいと考えている IT 分野についても、時間を確保して基礎から学ぶことができました。さらに、奨学金の支えによって、卒業論文の研究に落ち着いて取り組むことができ、無事に期限内に完成させることができました。

学業だけでなく、課外活動においても多くの貴重な経験をえました。国際学生会の活動に参加し、新しい友人との出会いや、日本文化に触れる機会が増え、留学生活がより豊かになりました。時間的にも精神的にも余裕が生まれたことで、これまで以上に積極的にイベントに参加し、多くの学びを得ることができました。

自分自身を振り返ってみると、このご支援によって「学業とアルバイトの両立」という重圧から解放され、より健やかな気持ちで生活できるようになったことが、何よりもありがたいと感じています。これまで以上に自分の心と体に向き合い、健康や精神面を大切にするようになりました。その結果、新しい挑戦に立ち向かう力を得ることができたと実感しています。

最後になりますが、小貫基金からのご支援は、単なる経済的な援助にとどまらず、「自分の努力が認められた」という大きな自信にもつながりました。この経験を忘れず、残りの学生生活でもさらに努力を続け、将来は日本とベトナムの架け橋として社会に貢献できる人材を目指してまいります。

本当にありがとうございました。

奨学生生活を振り返って

M大学 Y・M

この度は、約1年間の奨学金のご支援をしてくださり、誠にありがとうございます。私は現在、卒業研究を終え、3月に行われる歯科衛生士国家試験に向けて日々勉強に励んでいます。奨学金によるご支援は、私にとって大きな支えとなっていました。

奨学金をご支援いただいたおかげで、これまで自分のアルバイト代を教材費に充てていましたが、今年は奨学金を国家試験対策の教材費や問題集の購入に充てることができました。その結果、家計の負担も軽減され、より安心して勉強に集中できる環境を整えることができたと感じています。こうした十分な準備ができたことは、ご支援くださった皆様のおかげです。

また、奨学生として支援を受けているという意識は、日々の勉強に向き合う姿勢を改めて考えるきっかけとなりました。いただいた環境を無駄にしないよう、一つ一つの課題により丁寧に取り組むようになり、その積み重ねの中で自分の成長を実感できる場面も増えました。国家試験合格はもちろん、卒業後は支えていただいた皆様への感謝を忘れず、歯科衛生士として地域医療に貢献できるよう努めてまいります。これまでのご支援に深く感謝申し上げます。

奨学生生活を振り返って

M大学 M・I

この度は、奨学金という大変ありがたいご支援を賜り、心より感謝申し上げます。奨学金をいただいたことで、経済的な不安を軽減していただき、安心して学業に専念できた奨学生生活を送ることができました。

学生生活の中では、学業とアルバイトの両立に悩むこともあり、限られた時間の中でアルバイトの時間を作ることは決して容易ではありませんでした。しかし、奨学金の支えがあったからこそ、無理をして働くことなく、臨床臨地実習や国家試験に向けた学習に集中することができました。その結果、知識や技術だけでなく、医療人としての意識や責任感も以前より成長することができたと実感しています。

臨床臨地実習では、実際に臨床の場で学習させていただき、歯科診療に関する知識だけでなく、患者様一人ひとりに寄り添う姿勢の大切さを学びました。国家試験に向けた学習を通しては、計画的に努力を積み重ねる力を身につけることができました。また臨床臨地実習を通しては、将来は認定歯科衛生士になるという新たな夢を見つけることができました。その夢に向かって努力を重ねていきたいです。

この奨学生生活で得た学びと経験、そして支えてくださった方々への感謝の気持ちを忘れず、今後は社会に貢献できる人材となれるよう、より一層精進してまいります。改めまして、心より感謝申し上げます。

奨学生生活を振り返って

M大学 M・Y

この度は、小貫基金奨学金に採用いただき、誠にありがとうございました。支援を受けながら過ごした日々を振り返る中で、感じたことや学んだことをまとめていきたいと思えます。

奨学金をいただけたことで、学業に集中できる環境が整い、経済的に不安を強く感じることなく授業や実習に取り組むことができました。「今は学ぶことを最優先にしてい」
という安心感は、想像していた以上に大きな支えだったと感じています。

特に印象に残っているのは実習での経験です。教科書で理解していたつもりの内容が、実際の臨床現場では思うようにいかないことも多く、正直、最初は戸惑いや不安を感じる場面もありました。しかし、失敗や反省を重ねながら、自分に何が足りないのか、次はどう行動すればよいのかを考えることで、少しずつですが前向きに取り組めるようになりました。実習先でしていただいた指導や助言は、自分の考え方を見直すきっかけとなり、今後の学びにもつながる貴重な経験となりました。

また、奨学生として支援を受けているという意識があったからこそ、日々の学習や実習を「なんとなく」で終わらせず、丁寧に向き合おうという気持ちが強くなったように思えます。友人や先生方との関わりの中で、自分とは違う考え方に触れたり、刺激を受けたりしたことも自身の成長に大きく影響しました。

奨学金を通して過ごしたこの期間は、単に学費の支援を受けただけではなく、自分の将来や進路について真剣に考える時間でもありました。今思えば、悩みながらも学び続けた日々が、自分のなかで大きな転機となっていたと感じています。これから先も、今回得た経験と感謝の気持ちを忘れずに、学んだことを行動につなげていきたいと思えます。最後になりますが、支援して下さった皆様に心より感謝申し上げます。

奨学生生活を振り返って

M大学 R・Y

奨学生として保健医療学部で過ごした学生生活は、多くの方々の支えによって成り立っていることを強く実感する日々であった。専門性の高い講義や実習を受ける中で、学費の支援を受けながら学んでいるという意識が、日々の授業や実習に真剣に向き合う姿勢につながっていた。歯科衛生士として、必要な知識や技術を身に付ける過程は決して容易ではなく、実習や課題が重なる時期には、精神的にも体力的にも余裕がなくなることもあった。

そのような中でも学業を継続することができたのは、奨学金という形で支援して下さった方々の存在があったからこそである。また、日々熱心にご指導くださった先生方や、共に励まし合った仲間存在も大きな支えとなった。奨学生としての立場は、支援に応えたいという責任感を自然と生み、自分自身の行動や学習態度を見つめ直すきっかけにもなった。

さらに、この奨学生生活を通して計画性や自己管理能力の重要性を学んだ。限られた時間と資金の中で優先順位を考え、効率的に行動する力は、将来医療従事者として働く上でも欠かせない力であると感じている。決して当たり前ではない学びの環境に感謝の気持ちを持ち続け、保健医療学部で得た知識と技術を活かし、今後は社会に貢献できる歯科衛生士として成長していきたい。

奨学生生活を振り返って

K大学 O・K

奨学生として過ごした一年間を振り返り、
まず小貫基金財団の皆様にご心より感謝申し上げます。
一年間にわたり特別給付奨学金をご
支援いただき、それを学費に充てることができ
ました。経済的な負担が軽減されたことで、
家族に安心してもらうことができ、私自身も
生活面の不安を減らし、学業に集中できる環
境を整えることができました。

奨学金の支えのもと、私は目標を持って学
生生活を送ることができました。その結果、
日本語能力試験N1に合格することができた
だけでなく、在学中に自動車運転免許を取得
し、就職活動にも積極的に取り組むことがで
き、無事に就職先を決定することができまし
た。また、課外活動への参加や日常生活を通
じて、さまざまな日本文化に触れる機会にも
恵まれ、多くの経験を積むことができました。

これらの経験を通して、自立心や責任感の大
切さを学び、物事を広い視野で考える力を身

につけることができたと感じています。

現在は、「高齢者福祉制度の現状と未来への課題」をテーマに卒業論文を執筆しています。本論文では、「年金制度」、「老人施設」、「高齢者介護産業」の三つの主要分野を中心に、少子高齢化社会における課題について考察しています。

奨学生として安心して学べたこの一年間は、私にとって学業面だけでなく、人として成長する貴重な時間でした。今後は、この経験と感謝の気持ちを忘れず、社会の一員として責任を持ち、社会に貢献できるように努力していきたいと考えています。

奨学生生活を振り返って

C大学 R・B

小貫基金奨学金のご支援により、アルバイトの出勤日数を減らすことができ、その分、企業説明会への参加、面接準備、自己分析、学業に充てる時間を十分に確保できました。結果として内定をいただき、就労ビザも無事に取得いたしましたので、ここにご報告申し上げます。

就職活動は最初から順調だったわけではありません。初回面接では緊張しすぎて考えを十分に伝えられず、経営理念への理解も浅かったと痛感しました。しかし失敗を否定せず、原因を整理して改善を重ねました。その過程で「面接は自分の決意と価値観を誠実に伝える場。取り繕うより、ありのままを丁寧に伝えることが大切。不採用でも価値観が合わない場合は、入社後に長期的に働くことは難しい」と捉え直しました。以降、過度な緊張が和らぎ、自然な笑顔で臨めるようになり、失敗があっても意欲は消えず行動力は強まりました。

内定先の初回面接では事前に約 20 分社内を見学し所感文を提出したところ、一週間ほどで通過のご連絡をいただきました。約 1 か月後の最終面接では役員・本部長より、理念理解や文章の提案姿勢を評価いただき、翌々日に採用のご連絡いただきました。

もし奨学金のご支援がなければ、準備に必要な時間をここまで確保できず、この結果にも至らなかったと考えております。支えてくださった皆様への感謝を原動力に、着実に成果を積み重ねてまいります。この成果は小貫基金から温かいご支援いただいたからこそです。いただいたご恩を日本社会に返せるよう、日本の法律・社会規範・マナーを遵守し、「上には上がある」を胸に驕らず学び続け、立派な社会人として貢献してまいります。今後も報連相を徹底し、周囲への敬意を忘れず、日々研鑽を重ねてまいります。末筆ながら、貴基金の益々のご発展と皆様のご健勝を祈念申し上げます。何卒よろしく申し上げます。

奨学生生活を振り返って

C大学 K・B

小貫奨学金の奨学生として在学できたこの期間は、私にとって学業および研究に専念できる非常に貴重な時間となりました。本奨学金による経済的支援のおかげで、生活面での不安を軽減し、大学院での学習と研究活動に集中できる環境を整えることができました。

大学院では経営学を専攻し、日中化粧品企業の海外戦略をテーマに研究を進めてきました。日本企業と中国企業の経営戦略や市場対応を比較・分析する中で、理論的知識だけでなく、各国市場の特性や企業行動への理解を深めることができました。指導教員の先生からのご指導を受けながら、資料収集、分析、考察を重ねることで、研究を体系的に進める力を身につけることができたと感じています。

また、留学生として日本で学ぶ中で、異なる文化や価値観に触れ、自ら考え行動する姿勢の重要性を改めて認識しました。限られた時間の中で計画的に研究を進めることで、自己管理能力や責任感も養われたと考えています。

奨学生生活を振り返ると、小貫奨学金は経済的支援にとどまらず、将来を見据えて安心して学問に取り組むための大きな支えであったと実感しています。この経験を糧に、今後は大学院で培った知識と視野を活かし、日中両国をつなぐ架け橋となれるよう努めていきたいと考えています。

最後に、本奨学金を通じて支援して下さった関係者の皆様に、心より感謝申し上げます。

小貫基金の奨学金をいただいて送った学生生活は、単なる経済的支援を超えた、かけがえのない成長の時間でした。経済的な不安から解放されたことで、私は学問に集中できる環境を手に入れました。図書館で夜遅くまで文献と向き合い、ゼミでの議論に没頭する毎日は、経済的余裕があってこそできたことでした。

しかし、この奨学金が与えてくれた最大のものは、経済的支援そのものよりも、「期待されている」という実感でした。応募時に書いた計画書に記した目標を、自分自身がきちんと追いかけていかなければという責任感が、時に私を奮い立たせてくれました。研究が行き詰まった時も、「支えてくれている人たちがいる」という思いが前進の力になりました。

卒業を控えた今、この支援の本当の価値がわかります。それは単に生活費を賄ってくれただけでなく、未来への可能性を大きく広げてくれたことです。小貫基金の支援が、私の学生生活を確かな学びと成長の時間に変えてくれました。この恩を胸に、社会に貢献できる人間として歩んでいきたいと思えます。